



今月のテーマ

栄養不良について知ってほしいこと

栄養不良は今日地球上で最大の保健リスクです。栄養不良によって死亡する人数はAIDS、マラリア、結核の三大感染症の合計よりも多いのです。地球上の9人に一人が栄養不足ですので、世界で8億7千万人が栄養不足ということになります。これは、アメリカ、カナダ、EUの人口の合計よりも多いこととなります。栄養不足の98%は発展途上国に住んでいて、発展途上国の子どもの4人に一人が低体重栄養不良です。世界の人口の半分が属しているアジアと南米に世界の栄養不足の人口の3分の2が集中していますが、アジアと南米では栄養不足の人口が減っているのに対して、アフリカのサハラ以南諸国では増加しています。世界の人口の約半数が女性であるが、栄養不足の人口の60%が女性です。栄養不良問題に終止符をうつためには年間約1兆円の予算が必要とされています。これは大きな数字です。しかし、先進諸国は年間2億2千万トン(75兆円)の食糧を廃棄していて、これは先進食による途上国開発援助(ODA)の年間総額額の5倍以上で、アフリカのサハラ以南諸国の年間食糧生産量に匹敵することをご存知だったでしょうか？無駄をなくせば、地球上から栄養不良をなくすことは可能です。

連続ワークショップ



2016年8月12日に行われたワークショップ「国際栄養の現状と課題(第5回)(コミュニティでの持続可能な栄養改善～事例紹介)」がおこなわれました。コミュニティ住民参加型の栄養改善プロジェクトに関連する理論的な枠組みを概説した後、発展途上国で栄養

改善対策に取り組むNGO団体から様々な事例を紹介をいただき、実践的な知識と経験の共有を行いました。また、参加者からの経験共有もいただきながら、今後の効果的な栄養改善対策を討議する機会になりました。事例発表をいただいた団体と事例は、セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンによる「ベトナム国最貧困層のための地場の食料確保と栄養改善事業」、ワールド・ビジョン・ジャパンによる「バングラデシュ国フルバリヤ群栄養改善プロジェクト」、チャイルド・ファンド・ジャパンによる「フィリピン(ギマラス島)栄養プロジェクト(スポンサーシップ)」、アドラ・ジャパンによる「イエメン国食糧配付・栄養対策・給水支援事業」、ハンガー・フリー・ワールドによる「ベナン国子どもの栄養改善事業」の5団体、5事例でした。

その他

2015年4月25日に、「2015年世界栄養報告」セミナーが東京で行われ、日本政府、国際機関、NGO、大学、研究所、民間企業などから約200人が参加しました。セミナーは、セーブ・ザ・チルドレン、日本リザルツ、ワールドビジョン、そしてNAMが

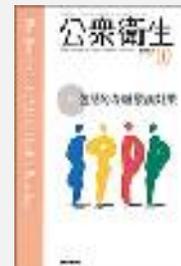
主催し、国際食糧政策研究所(IFPRI)シニア・リサーチフェローのローレンス・ハダット氏、SUN事務局長フローレンス・ラスベネ氏、ブラジル国立ゾン研究所ディオニシア・ナガハマ氏が招かれ、スピーチを行いました。NAMもこの会議において、日本の市民社会の声を代表して「栄養のアカウンタビリティについて世界の潮流」のスピーチを行いました。



ポジティブ・デビアンス

月刊誌「公衆衛生」の連載企画「ポジデビを探せ！」第二号にNAMは「コミュニティのエンパワメントとPD～ベトナム栄養改善の経験ベトナムにおけるポジティブ・デビアンスを活用した栄養改善プロジェクト」を寄稿しました。

この連載は読者に対して、ポジデビ・アプローチの特徴と可能性について、先駆者による紹介を通じて読者の理解を深めることを目的にしたもので、ポジデビ・アプローチとして意識的に、あるいは無意識に実践されている取り組みについて、国内外、分野を問わず紹介していくものです。



グローバルフェスタ

2016年10月1～2日の2日間にわたり、お台場のセンタープロムナードで「グローバルフェスタJAPAN2016」が行われ、今年もNAMは出展しました。

今回もボランティアの方々に参加していただきながら、「世界の栄養問題を考える」クイズを実施しました。昨年よりも多くの来場者がありました。今回は栄養状態測定ツールの紹介や「世界栄養報告書」の配布も行いました。



今後の計画

連続ワークショップ「国際栄養の現状と課題」が継続的に開催されます。また、11月25、26日に行われる「食料と栄養に関する国際シンポジウム」のパネルディスカッションにNAMが登壇します。国際協カプロジェクトの計画立案と資金調達にも力を入れ始めています。さらに、その他、研修・講義、地域の国際協カイベントなどでの出展や出前セミナーなど、いろいろな形で活動を行います。